

令和6年度 第2回 葵西小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和6年7月5日（金） 午後1時30分から午後3時25分まで
- 2 開催場所 葵西小学校 2階 会議室
- 3 出席委員 長谷川 良樹、古山 照美、石井 朋子、新木 智子、村井 レティシア、宮本 礼子
- 4 欠席委員 辻岡 和代
- 5 オブザーバー 嶋田 哲也（北部協働センター）
- 6 学 校 水野 希樹（校長）、古橋 智一（教頭）、廣瀬 高志（生徒指導主任）
工藤 敬子（CSディレクター）
- 7 教育委員会 鈴木 陽子（教育総務課）
- 8 傍聴者 なし
- 9 会議録作成者 CSディレクター 工藤 敬子
- 10 議長の選出

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、宮本委員が本日の議長を務めることを申し出、全員異議なくこれを承認した。

11 協議事項

- （1）葵西小の子供たちの様子について
- （2）本校児童の学習・生活について

12 会議記録

司会の教頭から、委員総数7人のうち6人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（1）葵西小の子供たちの様子について

議長の提案により、会議に先立って行われた授業参観の感想を交えて、子供たちの様子について意見を出し合った。委員から、以下の発言があった。

- ・ 参観者を気にせず授業に集中していた。普段の姿を見ることができた。（古山委員）
- ・ 6年生の墨を使う図工作品は、テーマに個性が見られて興味深い。5年生の日本地図を使った食材産地調べは、覚えやすく、みんなが参加できる工夫で素晴らしい。4年生の英語は先生の声がしっかり聞き取りやすい。1年生の音楽授業は大型モニターに歌詞を映し出していて、素晴らしい工夫だと思う。5年生の合言葉の掲示に「自分を信じて」とあった。子供のモチベーションがあがるものだと思う。（石井委員）
- ・ タブレットを使って勉強する5年生の姿が斬新だった。掲示物に様々な工夫があっ て見ごたえがあった。（宮本委員）
- ・ 七夕飾りに1年生のお手本になりたいと書いた2年生がいた。新学年になって数か月なのにそう考えている心意気に感動した。（新木委員）
- ・ 外国人取り出し指導で歌を歌っていた。クラスへ戻った時にみんなと一緒にできるような支援は大切だと感じた。（村井委員）
- ・ 先生と児童の距離が近く、児童の先生への信頼感を感じた。タブレットを使う姿から、昔と違って今の子供たちは何か情報が知りたいと思ったらインターネットで調べることができるのだろう。（長谷川委員）

（2）本校児童の学習・生活について

議長の提案により、生徒指導主任から、別紙資料に基づき児童の学習と生活の様子につ

いて説明があった。委員から、以下の発言があった。

① 子供たちの学びに向かう姿勢について

- ・ 子供は、大人が子供と同じ目線で具体的に説明することで理解が進む。(長谷川委員)
- ・ 子供たちは授業で「分かっていないことが、分かっていない」のではないかと。自分では分かったつもりになっていることも多いと感じる。(古山委員)
- ・ 学校評価の結果から、授業中にもっと知りたいという気持ちで取り組んでいる子供が多いことは嬉しい。子供たちはトライアンドエラーの繰り返し、家庭ではエラーのサポートを大切にしながら、学ぶことの大切さをもっと伝えていきたい。(宮本委員)
- ・ 子供たちが辞書を使わずにスマホで調べることでの弊害を感じる。(石井委員)
- ・ 子供たちの「分かる」と「できる」は全く違うと感じる。学習に集中できない子供もいる。個人差も大きい。苦手な課題に興味をもつためにどう支援をしたらいいのか、考え続けたい。(村井委員)
- ・ 1週間ごとの予定帳に変わって良かった。学習内容を家庭で話題にすることもあるし、持ち物について親も見通しを持って準備することができる。(新木委員)
- ・ 週予定の取組は、今の時代に沿っていて良い。家庭学習について、家庭でどう勉強したらいいか、悩まれている家庭は多いようだ。(宮本委員)
- ・ 学校でのパフォーマンスを保つためにも、睡眠や食事について家庭での声掛けが大事。(石井委員)
- ・ 睡眠や食事について、家庭で言われるのと先生に言われるのでは、子供の受け止める気持ちも違うと思うので、家庭と学校とで言う方がいい。(村井委員)
- ・ 校内での高学年のマスク着用率が高く、熱中症が心配。(新木委員)
- ・ 家庭でも言うが、学校でも熱中症対策として言ってほしい。(宮本委員)
- ・ 長期休みに子供たちの居場所があるといい。(古山委員)
- ・ 夏休み中の子供たちの居場所について保護者も考える必要がある。(宮本委員)
- ・ スーパーで友達同士だけで買い物している姿はちょっと気になる。(新木委員)
- ・ 夏休みは地域で何かできないのか。協働センターで遊ぶ日を設定してみてもいい。(村井委員)

② 学校での廊下歩行、地域での交通安全について

- ・ 校内でぶつかり事故があったと聞いた。来校時の休み時間に、廊下を走っている子はいる。家庭で何度も注意することが必要。(新木委員)
- ・ 学校では、ポスターをたくさん貼っているから、子供たちは注意しているのではないのか。(石井委員)
- ・ 廊下や階段での危険な場面を見かけることは多い。学校での危険ポイントを示す、コーンを置く取り組みはとても大事。地域での危険箇所もたくさんあるので、交通安全、マナーを伝え続けていくしかないと思う。(宮本委員)
- ・ 自転車の交通ルールの理解が不足している。地域では自転車の右側走行が多く、免許制の導入で交通安全意識を高める必要がある。短時間でも交通教室で左側通行を身に付けさせることが大事。ヘルメットは着用しているが、右側を走る子供が多い。また、学校の廊下は外の道路と同じ、交差点では止まらないと危ないという意識づけをしない

いといけない。(長谷川委員)

- ・ 昔は全員に自転車講習があった。この地域はトラックが多いし、狭い道も多い。交通マナー教育の機会は大事だと思う。(宮本委員)
- ・ 命の授業として、交通事故に合いそうな怖い思いをした経験などを、1年に1度くらい話し合いできる授業があってもいい(古山委員)
- ・ ビデオでいいから、車から歩行者が見えないことを見せるのも良いのではないか。(村井委員)
 - 自転車講習の実技指導の実施が難しくなった。座学には限界がある。(学校)
- ・ 地域での大人による見守りは重要。葵西地域見守り隊は減っているので、各家庭で見守っていかなければならない。(宮本委員)
- ・ 危険な場に居合わせたとき、その場で直接子供たちに注意できる地域の大人でありたい。(古山委員)
- ・ 子供を交通事故から守るために、学校だけに頼らず、地域での見守りもというのは良い議論。夏休みの居場所として北部協働センターも協力したい。(協働センター嶋田)
- ・ 子供は地域の宝。地域では「ながら見守り」という動きも広がっているように見える。学校と地域が一緒にできることを考え、命を守る取り組みが前進していくといい。(教育総務課鈴木)

協議の結果、子供たちの学びに向かう姿勢や学校での廊下歩行、地域での交通安全について、学校、家庭や地域で大切にしたいことを話し合うことができた。

○ その他報告連絡事項等

- ・ 司会の教頭から、運動場の総合遊具についての報告があった。
- ・ 司会の教頭から、次回開催日程について連絡があった。

第3回 令和5年10月11日(金) 13:30~15:30 会議室

- ・ 次回議長について、長谷川委員から、新木委員を推挙する旨の発言があり、全員異議なく、新木委員をお願いすることが決まった。